

社会実験で見えてきた インクルーシブパークの魅力と課題

—KJ法による構造化からの考察—

山口学芸大学 funny 住村尚美

目的

インクルーシブ
パークの魅力

KJ法で
整理・考察

今後の構想に
取り入れても
らいたい要素



研究の方法

データの収集

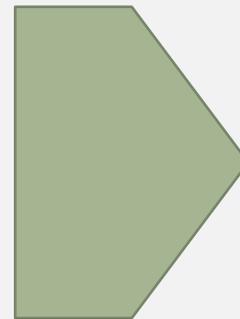
【対象者】

大学1~4年生 151名

【調査方法】

「インクルーシブパークについて
良いと思った場面」

の問いへの自由記述



分析の方法

【参加者】

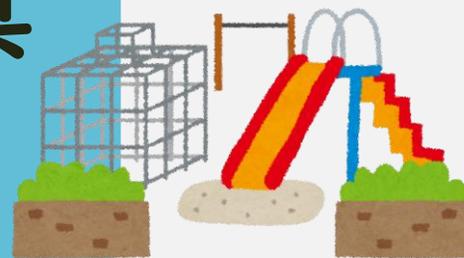
funny5名+教員

【分析方法】

KJ法の手法を用いた
構造化

結果（別添資料参照）

多様な遊具
がある



人と人との
つながり

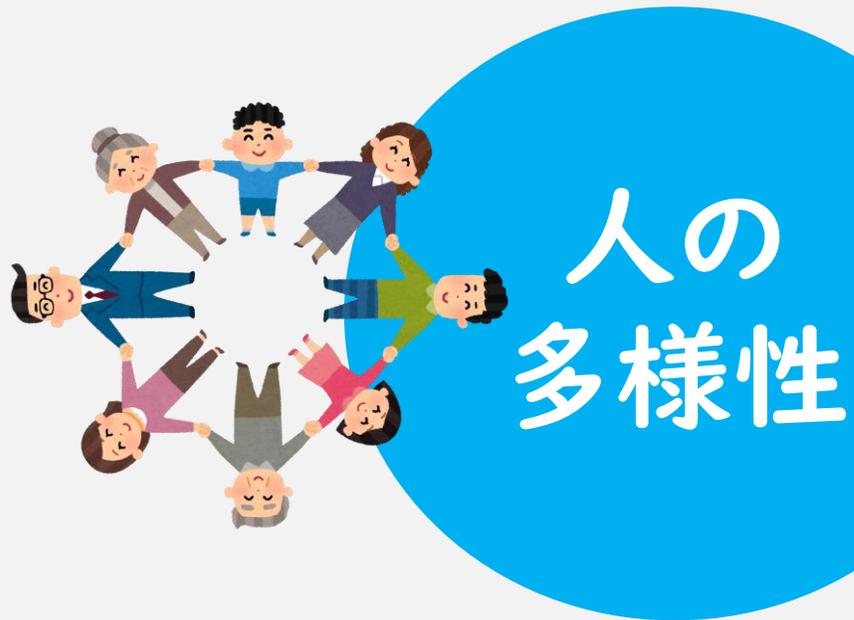


夢中になって
遊んで
いる

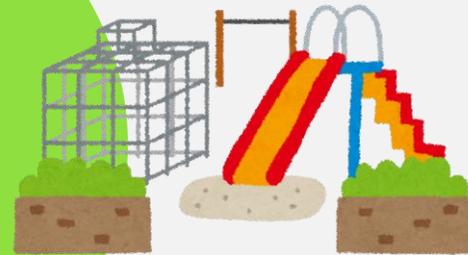


結論

ありのままの自分で
遊具が人と関わり合うことを仲介してくれる



遊具の
多様性



課題

インクルーシブの捉え方

楽しく、笑顔で
過ごせること



遊具ランキング

インクルーシブパーク

山口学芸大学 Funny



人気投票 ベスト10



子どもたちが好んでいる遊具の共通点

- ① 感覚を刺激する遊具
- ② 挑戦できる、遊びこめる遊具
- ③ マイペースで遊べる遊具
- ④ 誰かと一緒に遊べる遊具

学生が果たしてきた役割

① 子どもたちの安全を見守る

② 遊び方の提案をする

③ 子どもと子どもをつなぐ

④ 楽しみを共有をする